

■コメント（岡田保良）

皆さんこんにちは。岡田と言います。深見さんや布野先生と長くお付き合いのあるところ
です。皆さんイコモスという組織をご存じでしょうか。ユネスコの世界遺産を審査する役割
を担っている組織です。そのイコモスの日本の委員会での代表を務めています。

今日、日本の専門家から6つの発表がありました。その中には、荒牧さんが紹介された川
越、それから連さんが紹介された東京のど真ん中の赤坂の話もございました。実は日本には
こういう歴史的な町並みを住民たちの手で作っていきこうというグループがたくさんありま
す。そして日本の国の法律で指定された保存のエリアも確か100を超えていると思います。
そのように、日本には半世紀くらいにわたって住民が街並みを作り上げていくシステムが、
あちこちに根付いています。

一方、私はよく承知しておりませんが、カイロの歴史地区、ヒストリックカイロは、世界
遺産になってから随分経つと思いますけれども、そこでの街づくりが一体どんな風に進めら
れているのか、についてはよくわかりませんでした。けれども、1月のワークショップで
の話を伺っていると、カイロの皆さんはとても高い意識を持ってらっしゃるってこともわか
りました。その中で、先ほど布野さんがこれからの課題を話されましたけれども、これから
は皆さんがいろんな意見を出し合って街を作っていく、その枠組みやルール作りをやってい
かないといけないんじゃないかと感じました。おそらくそういう形でのルールづくりあるい
は枠組みづくりに、日本の色々な経験がお役に立つのではないかと思います。

そしてですね、一旦その世界遺産という観点から申し上げれば、世界遺産だからどうこう
するということではなくて、理想的にはやはり住んでいる方たちが、自分たちの街の歴史を
大事にし、それを再生し、活用しながら次の時代の街を作っていく。それが世界遺産として
の価値についても損なうことがない、という枠組みができれば理想的なんじゃないかな。

今日のような意見の交換は、私はまだ始まったばかりでこれから何度も続けていただきたい
と思っていますし、私自身もできればもっと知ってみたい。実は、私、スーク・シラーハ
を訪ねたことがありません。是非一度は訪ねてですね、皆さんと意見を交換したいと思っ
ています。更に申し上げればイコモスという、パリの本部があるNGOの組織ですけども、その
NGOの中には歴史的な街、あるいは一般の住宅なんかを保存し活用しようという国際的なグ
ループもあります。そういったところも目を向けていただき、議論に参加していただいて、
ヒストリックカイロの将来のまちづくりに活かしてもらえれば嬉しいなと思います。日本と
カイロの皆さんとのこれからの交流が、ますます盛んになることを願いまして、ご挨拶にし
たいと思います。ありがとうございました。